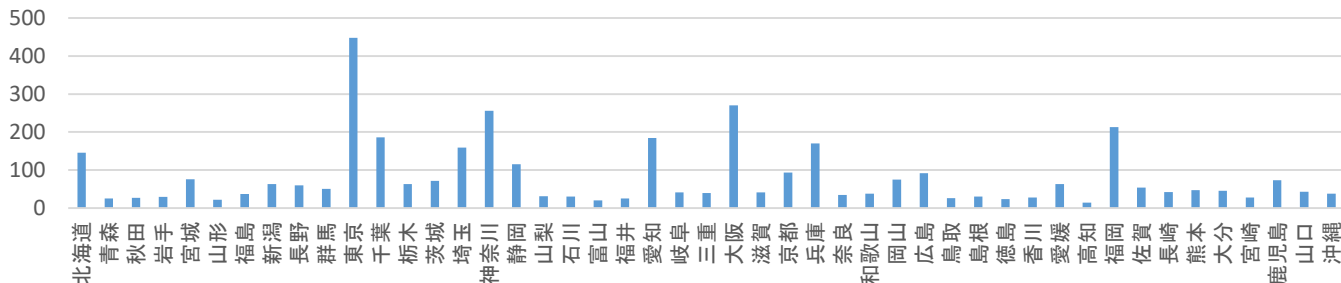


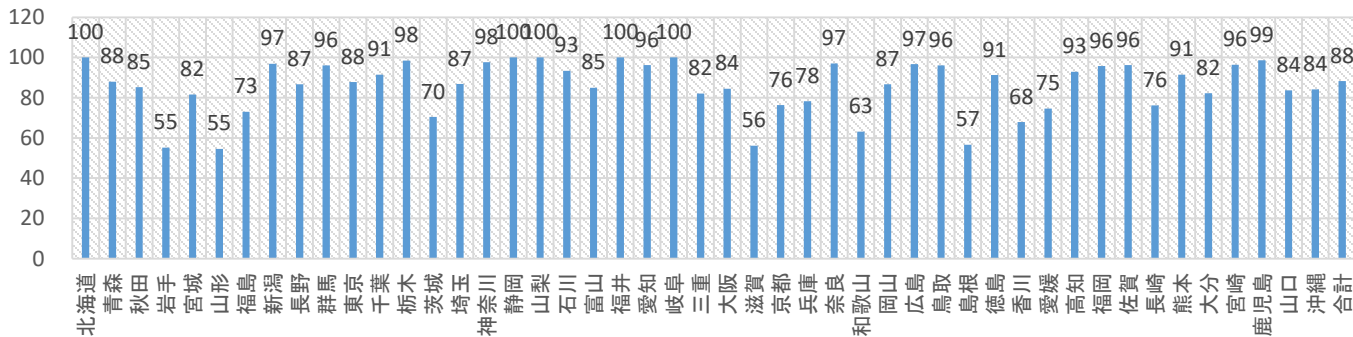
わが国のサーベイランスの課題とその対策

研究分担者：国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経内科 塚本 忠

2011-2018年総調査票送付数(合計 3783件)



2011～2018年調査票回収率



回収率の都道府県による違い

- 回収率の非常に高い都道府県がある。近畿ブロックの回収率は著明に改善した。
- 再依頼により調査表の回収率は明らかに上昇する。

剖検率のさらなる低下への対策

- 要因：ヒト乾燥硬膜移植後CJDの減少とともに剖検率が近年低下している。
- 主治医および家族向けパンフレットのさらなる活用（意義と安全性を説明）
- 剖検可能な施設を拡大もしくはセンター化
- 感染予防ガイドラインの改訂（2020年度版）と普及
- 関係学会の協力
- サーベイランスと自然歴調査の一体化により、剖検率上昇も期待される。

解 説

1. 都道府県別に差はあるものの、サーベイランス調査票の回収はまだまだ悉皆検査というにはほど遠い状態である。主治医への働きかけを何度も行う必要がある。
2. サーベイランス調査と自然歴調査の連携が、問題を改善させる可能性があり、2019年度の回収率は著しく改善した。